

実務経験のある教員等による授業科目一覧【美容科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
衛生管理Ⅰ	2	東日向子		
衛生管理Ⅱ	1	東日向子		
美容技術理論Ⅰ	2	石川裕美		
美容技術理論Ⅱ	3	木村祐紀子		
美容実習Ⅰ	15	石川裕美		
美容実習Ⅱ	15	木村祐紀子		
ネイルⅡ	2	馬原恵美		
メイク	1	石川裕美		
作品制作Ⅰ	2	石川裕美		
作品制作Ⅱ	2	木村祐紀子		
ネイルⅢ	1	馬原恵美		
マツエク	2	石川裕美		
クリエイティブ	2	大谷孔平		
ブライダル	2	木村祐紀子		
合 計	52			

授 科 目	業 名	関係法規（制度）			
担 教 員 名	三浦理函務	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	なし				
授業の概要	<p>教科書は日本理容美容教育センター出版の「関係法規・制度」及び「美容師関係法令集」を使用する。 この授業は、国家資格を取得し美容の業を行うにあたり必要な衛生法規から美容所を開設する場合に必要な法令について修得をする。</p>				
授業の到達目標	<p>「美容師試験」に合格できる法的知識の修得。 美容師法に関連する衛生法規の内容を体系的に理解し、国家試験の「関係法規・制度」において確実に合格できる実力を身に付けさせることを到達目標とする。</p>				
授 業 計 画					コマ数
1.	法制度の概要（人と社会生活、法とは何か）				1
2.	法の形式（憲法と日本の法令体系、条約、法律、命令、自治法規）				1
3.	法制度の概要及び法の形式のまとめ				1
4.	衛生行政の概要（衛生法規の意義、衛生法規の分類と生活衛生法規）				1
5.	衛生行政の意義と歴史（行政とは何か、衛生行政の意義、衛生行政の歴史）				1
6.	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（衛生行政の分類、生活衛生行政）				1
7.	衛生行政を担う行政機関（一般衛生行政の仕組み、厚生労働省の役割）				1
8.	衛生行政を担う行政機関（都道府県及び市町村の役割、保健所の役割と機構）				1
9.	衛生行政のまとめ				1
10.	美容師法の目的				1
11.	美容師法の用語の定義（美容、美容師、美容所）				1
12.	美容師に関する規定（概要）				1
13.	美容師に関する規定（養成施設の入所資格、養成施設、試験、免許と登録）				1
14.	美容師に関する規定（義務、業務停止、免許取消及び再免許）				1
15.	美容師に関する規定（管理美容師）				1
16.	美容所に関する規定（開設者が講ずべき衛生措置）				1
17.	美容所に関する規定（美容所以外での業務）				1
18.	美容所に関する規定（立入検査と環境衛生監視員）				1
19.	美容所に関する規定（概要、美容所の開設）				1

20.	美容所に関する規定のまとめ	1
21.	違反者等に対する行政処分（違反者等に対する行政処分）	1
22.	違反者等に対する行政処分（不利益処分を行う場合の手続き）	1
23.	違反者等に対する行政処分（違法または不当な処分等についての審査請求）	1
24.	行政処分のまとめ	1
25.	罰則（美容業の運営に関連する法律）	1
26.	罰則（美容業の衛生に関連する法律）	1
27.	罰則（美容業の消費者保護に関連する法律）	1
28.	罰則のまとめ	1
29.	関連法規、令体、参考資料、フォローアップ	1
30.	全体（重要項目主体に）フォローアップ	1
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）	2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）	3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【関係法規・制度】の教科書を授業計画に従って授業前に1コマ分を読んでおくこと。 授業後は復習を行うこと。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
関係法規・制度	公益社団法人日本理容美容教育センター	
美容師法関係法令集	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法規改正、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
授業での法律や使われる多くの語句が、高校までに学習していないものです。 そのために予習と復習を行い授業内容をその都度理解していく積み重ねが必要です。		

授 科 目	業 名	衛生管理Ⅰ（公衆衛生、環境衛生）			
担 教 員 名	東日向子	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	東日向子（病院において看護師として勤務）				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「衛生管理」を使用する。 この授業は、免許を取得して美容の業を行うにあたり必要な衛生法規から美容所を開設する場合に必要なとなる公衆衛生及び環境衛生における知識や法令について修得をする。				
授 業 の 到 達 目 標	「美容師試験」に合格できる衛生知識の修得。 美容の業を行うにあたり適切な衛生管理が行えるよう公衆衛生・環境衛生、感染症の3分野を体系的に関連づけて理解し、美容所での衛生環境を保てる知識と実力を身に付けさせることを到達目標とする。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	公衆衛生	公衆衛生の概要（公衆衛生の意義と課題）			1
2.	公衆衛生	公衆衛生発展の歴史（欧米と我が国の公衆衛生、消毒法の歴史）			2
3.	公衆衛生	美容師と公衆衛生（歴史の中の公衆衛生）			2
4.	公衆衛生	美容師と公衆衛生（公衆衛生と理容師・美容師）			3
5.	公衆衛生	保健所と美容（母子保健、成人・高齢者保健、精神保健）			3
6.	公衆衛生	公衆衛生のまとめ			2
7.	環境衛生	概要（環境衛生の内容、環境衛生の目的と意義、環境衛生活動）			1
8.	環境衛生	空気環境（空気と健康、温度・湿度・気流(風)と健康）			2
9.	環境衛生	環境衛生 衣服・住居の衛生（衣服の衛生、住居の衛生）			2
10.	環境衛生	上・下水道と廃棄物（上水道、下水道、廃棄物）			2
11.	環境衛生	衛生害虫とネズミ（衛生害虫、ネズミ）			2
12.	環境衛生	環境保全（水質汚濁）			2
13.	環境衛生	環境衛生のまとめ			2
14.	公衆衛生を主体にフォローアップ（国家試験対策）				2
15.	環境衛生を主体にフォローアップ（国家試験対策）				2

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【衛生管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
衛生管理	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
学習した衛生の知識を、日々の生活や実技をともなう授業において、意識的に実践することで衛生観念を身につけてほしい。		

授 科 目	業 名	衛生管理Ⅰ（感染症）			
担 教 員 名	東日向子	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後 期	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	東日向子（病院において看護師として勤務）				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「衛生管理」を使用する。 この授業は、免許を取得して美容の業を行うにあたり必要な知識、特に感染症における分野を修得をする。				
授業の到達目標	「美容師試験」に合格できる衛生知識の修得。 美容の業を行うにあたり適切な衛生管理が行えるよう公衆衛生・環境衛生、感染症の3分野を体系的に関連づけて理解し、美容所での衛生環境を保てる知識と実力を身に着けさせることを到達目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	感染症	人と感染症（感染症発見の歴史、感染症と法律、感染症の分類）			2
2.	感染症	病原微生物（微生物の種類、微生物の形と大きさ）			2
3.	感染症	病原微生物（微生物の構造、微生物の増殖と環境の影響）			2
4.	感染症	感染症の予防（微生物の病原性と感受性、汚染、感染及び発病）			3
5.	感染症	感染症の予防（常在細菌叢、免疫と予防接種）			2
6.	感染症	感染症の予防（感染症発生の要因、感染症予防の3原則）			2
7.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（空気・飛沫を介して感染）		2
8.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（飲食物を介して感染する感染症）		2
9.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（血液等を介して感染）		2
10.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（動物・節足動物を介して感染）		2
11.	感染症	理容・美容と感染症	対策（標準予防策、咳のある客への対応）		2
12.	感染症	理容・美容と感染症	対策（病変の皮膚をもつ客、嘔吐をした客へ）		2
13.	感染症	感染症のまとめ			2
14.	全体フォローアップ（国家試験対策）				3

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
【衛生管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
衛生管理	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
学習した衛生の知識を、日々の生活や実技をともなう授業において、意識的に実践することで衛生観念を身につけてほしい。		

授 科 目	業 名	衛生管理Ⅱ（衛生管理技術）				
担 教 員	当 名	東日向子	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期		通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	東日向子（病院において看護師として勤務）					
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「衛生管理」を使用する。 この授業は、免許を取得して美容の業を行うにあたり必要な衛生管理技術における知識とその技法を修得をする。					
授業の到達目 標	「美容師試験」に合格できる衛生知識の修得。 美容の業を行うにあたり適切な衛生管理が行えるよう公衆衛生・環境衛生、感染症の3分野を体系的に関連づけて理解し、美容所での衛生環境を保てる知識と実力を身に着けさせることを到達目標とする。					
授 業 計 画						コマ数
1.	消毒法総論	消毒とは（病原微生物と非病原微生物、消毒の原理）				1
2.	消毒法総論	消毒の意義（汚染、感染、発病と消毒の意義、殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義）				1
3.	消毒法総論	業務と消毒との関係（関連法規、消毒を怠った場合の危険性と責任）				1
4.	消毒法総論	消毒法と適用上の注意（消毒法の種類、消毒（殺菌）に必要な条件）				1
5.	消毒法総論	消毒法と適用上の注意（病原微生物の抵抗力、消毒薬の使用、保存上の注意）				1
6.	消毒法各論	理学的消毒法（紫外線消毒、煮沸消毒、蒸気消毒、その他の理学的消毒法）				1
7.	消毒法各論	化学的消毒法（アルコール類、塩素剤、界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジン）				1
8.	消毒法各論	すぐれた消毒法（すぐれた消毒法の条件、消毒を行う際の注意事項）				1
9.	消毒法実習	各種消毒薬（消毒薬の概要、器具の使い方）				1
10.	消毒法実習	各種消毒薬 （常備しておくといよい消毒薬と希釈液の濃度、消毒薬希釈法）				1
11.	消毒法実習	美容所の消毒の実際 （理容所・美容所における消毒の原則）				1
12.	消毒法実習	美容所の消毒の実際 （理容所・美容所の消毒設備、器具類の消毒法）				1
13.	消毒法実習	美容所の消毒の実際 （手指の消毒、その他の消毒、消毒の現状）				1
14.	消毒法実習	美容所の清潔法の実際 （清潔保持、洗剤による清浄法、洗い場の構造）				1
15.	消毒法実習	美容所の清潔法の実際 （刈毛の処理、汚物箱の消毒、ハエや蚊の駆除）				1
16.	消毒法実習	美容所の清潔法の実際				1
17.	美容器具、布片などの消毒法（実例）					1
18.	美容師法指定規則で規定されている消毒法					1

19.	公衆衛生、環境衛生、感染症のそれぞれの視点で考える衛生管理技術	1
20.	消毒法総論を主体にフォローアップ	2
21.	消毒法各論を主体にフォローアップ	2
22.	消毒法実習を主体にフォローアップ	2
23.	全体（重要項目主体に）フォローアップ	2
24.	【国家試験対策】衛生管理の全分野をからめた問題演習と解答・解説	3
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【衛生管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
衛生管理	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年で学習した「公衆衛生・環境衛生」、「感染症」及び2年で学ぶ「衛生管理技術」を一体的に理解し、正しい衛生観念を身につけ、美容師試験に合格して欲しい。 卒業後、従事するであろう美容所において実践していくことが大切である。		

授 科 目	業 名	保健Ⅰ（人体の構造及び機能）				
担 教 員 名	三浦理函務	学 年	1	単 位 数	1	
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義	
実務経験	なし					
授業の概要	教科書は日本理容美容教育センター出版の「保健」を使用する。 この授業は、美容の業を行うにあたり必要な人体の構造及び機能について学習するものである。					
授業の到達目標	「美容師試験」に合格できる保健分野の知識を得ること。 美容の業を行うにあたり人体の構造と機能を理解し施術できるようにする。					
授 業 計 画					コマ数	
第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学					3	
1.	1項 人体各部の名称					
2.	2項 頭部、顔部、頸部の体表解剖学					
第2章 骨格器系					3	
3.	1項 骨の種類と構造					
4.	2項 骨の連結					
5.	3項 骨格器系とそのはたらき				3	
第3章 筋系						
6.	1項 筋の種類とその特徴					
7.	2項 主な骨格筋とそのはたらき				3	
8.	3項 表情筋と表情運動 4項 理容・美容の作業と筋疲労					
第4章 神経系					3	
9.	1項 神経系の成り立ち					
10.	2項 中枢神経系とそのはたらき					
11.	3項 末梢神経系とそのはたらき				4	
第5章 感覚器系						
12.	1項 視覚					
13.	2項 聴覚					
14.	3項 平衡感覚					
15.	4項 味覚					
16.	5項 嗅覚					
17.	6項 皮膚感覚					

第6章 血液と免疫系		4
18.	1項 血液のあらまし	
19.	2項 免疫のあらまし	
20.	3項 アレルギー	
第7章 循環器系		3
21.	1項 心臓のあらまし	
22.	2項 血液循環の仕組み	
23.	3項 血液の循環経路	
24.	4項 リンパ管系の仕組みとはたらき	
第8章 呼吸器系		3
25.	1項 呼吸器系のあらまし	
26.	2項 気道	
27.	3項 肺の仕組みとガス交換	
28.	4項 呼吸運動	
第9章 消化器系		4
28.	1項 消化器系のあらまし	
29.	2項 消化管の仕組み	
30.	3項 消化管のはたらき	
31.	4項 消化と物質代謝	
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【保健】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
保健	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		

そ の 他（生徒への要望等）

さまざまな施術を行うにあたり、人体の構造を理解しホメオタシスを向上させる手助けができるような意識づけレベルになって欲しい。

授 科 目	業 名	保健Ⅱ（皮膚科学）			
担 教 員 名	三浦理図務	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	通年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	なし				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容脅威行くセンター出版の「保健」を使用する。 人体の構造及び機能のうち、もっとも関係が深い「皮膚科学」の分野に特化して学 習するものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「美容師試験」に合格できる保健分野の知識を得ること。 美容の業を行うにあたり皮膚の構造から機能や恒常性に至るまで、施術に必要な 知識を確実に身につけること。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	第1章 皮膚の構造				6
	表面、断面、表皮、表皮と真皮の境、真皮、皮下組織、皮膚の部位差				
2.	第2章 皮膚付属器官の構造				6
	毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪				
3.	第3章 皮膚の循環器系と神経系				4
	皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経、				
4.	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能				8
	対外保護、体温調節、知覚と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、				
	免疫・解毒・排除、再生、毛のはたらき、爪のはたらき				
5.	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健				12
	全身状態、精神、栄養、嗜好品、体内病変、水分と脂、				
	付属器官とホルモン、毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ、皮膚トラ ブル				

6.	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	24
	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法	
	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹、口唇の疾患、	
	温熱・寒冷による皮膚障害、角化異常による皮膚疾患	
	色素異常による皮膚疾患、血管腫（アカアザ）	
	脂腺母斑、下肢静脈瘤、分泌異常、化膿菌、ウイルス、真菌	
	衛生害虫、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍	
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【保健】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
保健	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
皮膚の構造と機能などを十分に理解し、お客様の状況に応じた対応ができる知識を身に付けて欲しい。		

授 業 名	化粧品化学Ⅰ				
担 当 教 員 名	社川武弘	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	講義
実務経験	社川武弘（実務経験なし）				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「化粧品化学」を使用する。 この授業は、一般的に化粧品に分類される物の原料や特性における知識を身に付け、安全に使用することができるようにするものである。				
授業の到達目標	「美容師試験」に合格できる化粧品化学の知識を得ること。 美容の業を行うにあたり化粧品を安全に使用できるようになること。				
授 業 計 画				コマ数	
1章 化粧品概論					
1.	1節 化粧品の社会的意義と品質特性			1	
2.	2節 化粧品の規制			3	
3.	3節 化粧品の安定性と取り扱い上の注意			2	
4.	4節 化粧品と安全性			2	
2章 化粧品用原料					
5.	1節 化粧品の対象となる人体各部の性状			3	
6.	2節 水性原料			1	
7.	3節 油性原料			3	
8.	4節 界面活性剤			3	
9.	5節 高分子化合物			3	
10.	6節 色材			2	
11.	7節 香料			2	
12.	8節 その他の配合成分			2	
13.	9節 ネイル、まつ毛エクステンション用材料			3	

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
美容実習の授業の中で、さまざまな香粧品を使用することになる。 実技系の授業においては、香粧品を安全に使用することを考え、日々実践して欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
香粧品化学	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
日々の生活や実技をともなう授業において、常に安全な香粧品の取り扱いを意識的し、実践して欲しい。		

授 科 目	業 名	香粧品化学Ⅱ			
担 教 員	社川武弘	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	社川武弘（実務経験なし）				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「香粧品化学」を使用する。 この授業は、免許を取得して美容の業を行うにあたり実際に美容所で使用される香粧品の知識を身に着け、安全に取り扱うことができるようにするものである。				
授業の到達目 標	「美容師試験」に合格できる香粧品化学の知識を得ること。 美容の業を行うにあたり香粧品を安全に使用できるようになること。				
授 業 計 画					コマ数
3章 基礎香粧品					
1.	1節 皮膚清浄用香粧品				2
2.	2節 化粧水				1
3.	3節 クリーム・乳液				3
4.	4節 その他の基礎香粧品				1
4章 メイクアップ用香粧品					
5.	1節 メイクアップ用香粧品の種類と剤形				1
6.	2節 ベースメイクアップ香粧品				3
7.	3節 ポイントメイクアップ香粧品				4
5章 頭皮・毛髪用香粧品					
8.	1節 シャンプー剤				2
9.	2節 スタイリング剤				3
10.	3節 パーマ剤				3
11.	4節 ヘアカラー製品				3
12.	5節 育毛剤				2

6章 芳香製品と特殊化粧品		
13.	1節 芳香製品	1
14.	2節 特殊化粧品	1
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)		
美容実習の授業の中で、さまざまな化粧品を使用することになる。 実技系の授業においては、化粧品を安全に使用することを考え、日々実践して欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
化粧品化学	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
日々の生活や実技をともなう授業において、常に安全な化粧品の取り扱いを意識的し、実践して欲しい。		

授 科 目	業 名	文化論 I				
担 教 員 名	大谷孔平	学 年	1	単 位 数	1	
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義	
実務経験	大谷孔平（実務経験なし）					
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「文化論」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり知っておくべき、理容美容の文化史から資格制度の変遷などを学ぶものである。					
授業の到達目標	「美容師試験」に合格できる理容業・美容業の歴史と文化の修得。 自分たちがたづさわることとなる美容の業の文化史を体系的に学び国家試験に合格できる知識の修得を目標とする。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	日本の美容業の歴史	理容業・美容業の発生			2	
2.	日本の美容業の歴史	江戸時代の理容業・美容業			2	
3.	日本の美容業の歴史	近代の理容業・美容業			2	
4.	日本の理容業・美容業の歴史	現代の理容業・美容業			2	
5.	日本の理容業・美容業の歴史	日本の理容業・美容業の歴史年表			2	
6.	ファッション文化史	日本編 縄文・弥生・古墳時代			2	
7.	ファッション文化史	日本編 古代（飛鳥・奈良・平安時代）			2	
8.	ファッション文化史	日本編 中世（平安末・鎌倉一室町・戦国時代）			2	
9.	ファッション文化史	日本編 近世Ⅰ（戦国末・安土桃山時代）			2	
10.	ファッション文化史	日本編 近世Ⅱ（江戸時代）			2	
11.	ファッション文化史	日本編 近代（明治・大正・昭和20年まで）			2	
12.	ファッション文化史	日本編 現代Ⅰ（1945年～1950年代）			2	
13.	ファッション文化史	日本編 現代Ⅱ（1960年代～1970年代）			2	
14.	ファッション文化史	日本編 現代Ⅲ（1980年代～1990年代）			2	
15.	ファッション文化史	日本編 現代Ⅳ（2000年代以降）			2	

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【文化論】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
文化論	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年では主に日本での理容・美容の文化史を学習する。2年時には世界へと範囲が広がる。古代から学び始め、最後には日本と世界の文化が融合していくため、日本での文化の歩みを学び、2年時には世界の流れとを照らし合わせながら学んでほしい。		

授 科 目	業 名	文化論Ⅱ			
担 教 員 名	大谷孔平	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	大谷孔平（実務経験なし）				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「文化論」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり知っておくべき、理容美容の文化史から資格制度の変遷などを学ぶものである。				
授業の到達目標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる理容業・美容業の歴史と文化の修得。 自分たちがたづさわることとなる理容の業や美容の業の文化史を体系的に学び国家試験に合格できる知識の修得を目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	ファッション文化B7:G24史 西洋編 古代エジプト・ギリシャ・ローマ				2
2.	ファッション文化史 西洋編 古代ゲルマン・中世ヨーロッパ				2
3.	ファッション文化史 西洋編 近世Ⅰ（16世紀）				2
4.	ファッション文化史 西洋編 近世Ⅱ（17世紀）				2
5.	ファッション文化史 西洋編 近世Ⅲ（18世紀）				2
6.	ファッション文化史 西洋編 近代Ⅰ（18世紀末～19世紀初め）				2
7.	ファッション文化史 西洋編 近代Ⅱ（19世紀）				2
8.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅰ（1910年代～1920年代）				2
9.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅱ（1930年代～1940年代前半）				1
10.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅲ（1940年代後半～1950年代）				2
11.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅳ（1960年代）				2
12.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅴ（1970年代）				2
13.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅵ（1980年代）				2
14.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅶ（1990年代～2010年）				1
15.	ファッション文化史 西洋編 まとめ 演習問題と解答解説				1

16.	礼装の種類 和装の礼装	1
17.	礼装の種類 洋装の礼装	1
18.	礼装の種類まとめ、演習問題と解答解説	1
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)		
【文化論】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
文化論	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
1年で学習した日本の理容・美容の文化史と世界の文化史を照らし合わせて、楽手をすすめてほしい。 文化論、国家試験に出題される科目である。各時代ごとの特徴を分類し学習すること。 なお、礼装の種類も男性女性、和装と洋装についても見落としなく学習すること。		

授 科 目	業 名	美容技術理論 I			
担 教 員 名	石川裕美	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	石川裕美（美容所において美容師として勤務）				
授業の概要	優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、合理的な方法によって実践されなければならない。美容技術理論を学ぶ目的は美容技術の習得を容易にすることである。				
授業の到達目 標	美容技術理論を体系的に理解し、技術習得において、理論的に考えて実践できるようにすることが目標である。また、国家試験の「美容技術理論」において確実に合格できるまでの実力を身に着けることが到達目標である。				
授 業 計 画					コマ数
1.	序章 美容技術理論を学ぶにあたって 美容理論と美容技術				1
2.	美容技術における作業姿勢 美容技術に必要な人体各部の名称				3
3.	美容技術における道具、器具、機械の種類と各部の名称				4
4.	シャンプーイング総論 目的・シャンプー剤・界面活性剤				3
5.	リンス・コンディショナー・トリートメントの効果				2
6.	ヘッドスパ スカルプトリートメント 育毛剤の成分とはたらき				2
7.	パーマメントウェーブの歴史と現在				2
8.	毛髪の構造について				1
9.	パーマメントウェーブの理論 ウェーブ形成の仕組み				4
11.	パーマ剤の分類				2
12.	パーマメントウェーブ技術プロセス				2
13.	縮毛矯正技術プロセス				1
14.	ワインディングのバリエーション				1
15.	ヘアセッティングとは オリジナルセットの基本要素				1
16.	基本的なコムワーク				1
17.	ヘアカーリング ベースと形状別特徴				2
18.	ヘアウェーピング各部の名称				1
19.	ウェーブとピンカールの関係 スキップウェーブ				2

20.	カールピニングの種類と名称	2
21.	ウィッグとヘアピース アップスタイル	1
22.	ブロードライ 使用ブラシとドライヤーの角度	1
23.	アイロンセッティング ストランドの根本、毛先の扱い	1
24.	アップスタイル バックコーミング	1
25.	ウィッグとヘアピース 種類と手入れ法	1
26.	着付けの目的 着物と季節	1
27.	和装礼装 着物、帯 和装小物の種類	5
28.	着物各部の名称とたたみ方	1
29.	着付けの基本 留袖・振袖・女子袴	6
31.	男子和装礼装 着物、袴、羽織着付け技術	2
33.	婚礼着付けの注意事項	1
34.	和装花嫁・洋装花嫁	2

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。
授業後はワークブック（問題集）を活用し、確実に学習する習慣をつけて欲しい。

使用テキスト

書籍名	出版社
美容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター
ワークブック	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

- ① 国家試験に合格できる知識を確実に習得してほしい。
- ② 「理論的に思考して技術練習を行う」ことで、個々の技術の早期習得に役立てて欲しい。
- ③ この技術理論を確実に身に着けて、美容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。

授 科 目	業 名	美容技術理論Ⅱ				
担 教 員	木村祐紀子	学 年	2	単 位 数	3	
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義	
実務経験	木村祐紀子（美容所において美容師として勤務）					
授業の概要	優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、合理的な方法によって実践されなければならない。美容技術理論を学ぶ目的は美容技術の習得を容易にすることである。					
授業の到達目	美容技術理論を体系的に理解し、技術習得において、理論的に考えて実践できるようにすることが目標である。また、国家試験の「美容技術理論」において確実に合格できるまでの実力を身に着けることが到達目標である。					
授 業 計 画					コマ数	
1	日本髪由来 各部の名称				1	
2	日本髪と調和 装飾品				2	
3	日本髪の結髪道具 結髪技術と手入れ かつらの下地 付け外し				3	
4	ヘアカラーリング概論				3	
5	ヘアカラーの分類 タイプ別特徴				3	
6	染毛のメカニズム				3	
7	色の基本 毛髪のレベルとアンダートーン				3	
8	染毛剤使用の注意点 パッチテスト				1	
9	酸化染毛剤の技術プロセス				3	
10	ヘアブリーチ				2	
11	ヘアカッティングとは				1	
12	シザーズとレザーの扱い方 美容の刃物				3	
13	ブロッキング 頭部の基準ポイント				1	
14	ヘアカッティングの正しい姿勢とカットライン基礎理論				2	
15	ベーシックカットの種類と技法				2	
16	シザーズによるカット技法（ストローク・セニング・スライド）				3	
17	レザーによるカット技法（テーパー面・方向・位置）				2	
18	錯覚現象を美容に生かそう（距離・角度・大きさ）				2	
19	その他の錯覚現象（存在しないものが見える・動いて見える）				2	
20	デザインの要素（点・線・面・空間）				2	
21	デザインの原理 法則（方向・角度・比率）				2	
22	バランス シンメトリーとアシンメトリー				1	
23	調和（ハーモニー） 対比（コントラスト） 躍動感（リズム）				2	
24	エステティック概論 美容におけるマッサージ				3	
25	皮膚の生理と構造				2	
26	カウンセリング				1	

27	フェイシャルケア技術及びデコルテマッサージ	4
28	フェイシャルパック	2
29	ボディケア技術 マッサージ	2
30	ネイル技術の種類 ネイルアート	1
31	爪の構造と機能 各部の名称 カット形状	3
32	ネイル技術と公衆衛生	2
33	消毒法	2
34	カウンセリング	1
35	ネイルケア 道具と技術手順	3
36	マニキュア・ペディキュア技術手順	3
37	アーティフィシャルネイル (メンテナンス・オフ)	1
38	ジェルネイル技術手順	1
39	シルクラップ技術手順	1
40	ハンドマッサージ・フットマッサージ	1
41	メイクアップ概論	1
42	顔のプロポーション 骨格と筋肉	1
43	メイクアップ概論による立体感 光と陰 色彩	2
45	スキンケア	1
46	ベースメイクアップ ポイントメイクアップ	1
48	まつ毛エクステンションにおける衛生管理	1
49	カウンセリング アフターケア まつ毛の毛周期	1

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。
授業後はワークブック（問題集）を活用し、確実に学習する習慣をつけて欲しい。

使用テキスト

書籍名	出版社
美容技術理論Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
ワークブック	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

- ① 国家試験に合格できる知識を確実に習得してほしい。
- ② 「理論的に思考して技術練習を行う」ことで、個々の技術の早期習得に役立てて欲しい。
- ③ この技術理論を確実に身に着けて、美容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。

授 科 目	業 名	運営管理			
担 教 員 名	後藤廣一朗	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	後藤廣一朗（実務経験なし）				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「運営管理」を使用する。 この授業は、美容の業を行うにあたり知っておくべき、自己のまたは組織の管理者としての必要な知識を習得するものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「美容師試験」に合格できるだけの「経営」についての知識を修得すること。ひいては、就職してから「従業員」としてマネジメントのキャリアをスタートするが、経営者として成長していくために必要な基礎的知識の修得を目指す。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	・経営が必要とされる理由 ・継続が難しい理由 ・経営とは何か				1
2.	・経営資源と経営計画 ・経営戦略 ・経営戦略が目指すもの				2
3.	・業界の概要 ・競争の変化				1
4.	・サービスとしての理容・美容 ・理容業・美容業の顧客について				1
5.	・資金管理の重要性 ・収支と損益 ・会計の考え方 ・コストを管理する				2
6.	・税金について				1
7.	・人という資源 ・人の能力を高める ・人をやる気にさせるために				2
8.	・給与 ・待遇・福利厚生 ・労働者の権利				2
9.	・健康管理の基礎 ・理容・美容の仕事と健康				2
10.	・理容業・美容業に特徴的な健康課題 ・作業環境に関する健康問題				2
11.	・社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任				1
12.	・社会保険（公的年金、医療保険、労働保険）				2
13.	・キャリアプランの重要性 ・仕事をするうえで考えるべきこと				1
14.	・顧客が求める価値 ・価値の実態				1
15.	・顧客満足の実現のためのシステム ・最も重要な価値：人				1
16.	・価値の多様性 顧客が求めるもの ・サービスの範囲				1
17.	・理容業・美容業のマーケティング ・マーケティング・ミックス				1
18.	・マーケティング・ミックスの要因 短期的要因 長期的要因				2

19.	・サービスのシステム化 ・接客についての理解 ・よい接客のために	2
20.	・接客の実践①～⑤ ・接客におけるトラブルと対応	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【運営管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
運営管理	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
美容店を守り、発展させていくために必要な知識や技能は多岐にわたっている。 この授業では基本的な知識や方法を学ぶのだが、これらを将来、顧客のために具体的に実践しながら学び発展させていくことを望んでいる。		

授 科 目	業 名	美容実習 I			
担 教 員	石川裕美	学 年	1	単 位 数	15
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	実 習
実務経験	石川裕美（美容所において美容師として勤務）				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・美容の業務を安全に実施するため、作業姿勢、取り扱いを把握させる。 ・国家資格条件は技術のみではなく、衛生試験があることを念頭に置き、日常から公衆衛生の注意徹底をする。 				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の名称、使用目的の理解。各単元の基礎技術の理解と技術の習得。 ・さまざまな美容業の種類の理解と知識を身に着ける。 				
授 業 計 画					コマ数
1.	美容実習カリキュラム説明 美容用具及び器具等の取扱い説明				3
2.	ワインディング技術（モデルウィッグ）目的に応じたブロッキング 正確なブロッキングを取る為のコームワーク				6
3.	下巻きの習得とタイムランの反復練習				15
4.	上巻きの習得とタイムランの反復練習				15
5.	国家試験第2課題の構成の説明と反復練習（センター）				30
6.	国家試験第2課題の構成の説明と反復練習（フロント・バックサイド）				30
7.	国家試験第2課題の反復練習（全頭）				30
8.	国家試験第2課題のタイムラン（40分）		技術テスト I		21
9.	国家試験第2課題のタイムラン（25分）		技術テスト II		31
10.	校内競技会種目の評価基準を理解 校内競技会に向けてのタイムランと反復練習				60
11.	ヘアカッティング技術（ベーシック） シザーズの安全な使用法 各部名称 正確な作業姿勢				3
12.	ワンレングスカット（モデルウィッグ） ワンレングスカットの特徴 ブロッキングの説明 コームワーク、パネルの角度				6
13.	セიმレングスカット セიმレングスカットの特徴 ブロッキング、コームワーク パネルの角度				6
14.	ブロードライ仕上げ ドライヤー、ブラシの使用法 トリミングカット セニングシザーズの使用法				3
15.	ヘアカラーリング ヘアカラーの種類と特徴 染毛剤使用時の注意事項 ヘアカラーリングの道具の説明 酸性染毛剤の技術手順（モデルウィッグ）				9
16.	シャンプーイング 接客の基本 作業姿勢、シャンプーイングの手技の習得 スカルプトリートメントの手技の習得				15
17.	シャンプーイング ヘッドスパの目的と効果の説明 手技の習得				6
18.	サロン実習 I サロンワークの実践を店舗で学ぶ （接客・掃除・アシスタント業務）				60

19.	ヘアセッティングⅠ 目的に応じたヘアセッティングの種類の説明 ローラーカーリング技術の習得	3
20.	日本髪制作 日本髪の各部の名称 顔と髪の調和の説明 日本髪の装飾品の説明	3
21.	結髪技術の基礎 ピニング、コムワーク、面の出し方 たば毛の使用法の説明 効果的なスタイリング剤の使用法 技術テスト	6
22.	パーマメントウェーブ技術 パーマ剤の分類 パーマ剤の注意事項と手順 目的に応じたワインディングのバリエーション（モデルウィッグ）	3
23.	ヘアセッティングⅡ ヘアシェーピング技術 フィンガーウェーブ技術の習得 ピンカール技術の習得	40
24.	ヘアセッティングⅡ 国家試験第2課題技術の構成の説明 （オールウェーブセッティング）	6
25.	オールウェーブセッティング技術のタイムラン（40分）	70
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）	2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）	3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
定期技術テストでの結果に応じ、個々で技術の自主練習を徹底させる		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
美容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
美容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
美容技術DVDを必要に応じて視聴する		
そ の 他（生徒への要望等）		
① 使用する用具、器具の使用法、衛生などを1年次から自覚。 ② モデルウィッグでの技術練習が過多であることを自覚させ人頭と同様に扱わせる。 ③ 評価に応じて自主的に反復練習。		

授 科 目	業 名	美容実習Ⅱ				
担 教 員	木村祐紀子	学 年	2	単 位 数	15	
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	実 習	
実務経験	木村祐紀子（美容所において美容師として勤務）					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に取得した基礎技術の応用を実践で学ぶ。 ・人頭モデルので技術練習を増やすことで、さまざまな事例に対応できるようにする。 ・国家試験合格に向けた反復練習と個々の能力に応じた個別訓練を徹底する。 					
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に習得した基礎技術が身につき、応用されていること。 ・国家試験合格に向け、衛生面などの意識付けが日常生活から身につけていること ・技術の見直し、反復練習が習慣化できていること ・各単元の定期テストが合格基準に達していること 					
授 業 計 画					コマ数	
1.	着付技術 着物の種類、各部の名称の説明 小物の名称と使用用途の説明 畳み方の習得				3	
2.	着付技術 普段着の着付、お太鼓帯び結び技術の習得				12	
3.	着付技術 留袖着付、二重太鼓帯び結び技術の習得				6	
4.	着付技術 振袖・袴（女）着付 帯結び（太鼓系・文庫系）技術の習得				9	
5.	睫毛エクステンション技術 使用用具、器具の説明 テーブルセッティング、テーピング（モデルウィッグ）の習得				3	
6.	睫毛エクステンション技術 人工毛装着とリムーブの習得（モデルウィッグ）				12	
7.	睫毛エクステンション技術 デザインに沿った人工毛の選択と装着の習得（モデルウィッグ）				9	
8.	睫毛エクステンション技術 カウンセリング テーピング、掻き分けの習得（相モデル）				6	
9.	メイクアップ技術Ⅲ 舞台メイク （アニマルメイク・バレエメイク・歌舞伎、隈取）の習得				3	
10.	メイクアップ技術Ⅲ 特殊メイク（傷・あざ・火傷・老人風メイク）の習得				3	
11.	サロンスタイル アレンジヘア（編み込み、創作アップスタイル）の習得（相モデル）				3	
12.	サロンスタイル カラーリング（ブリーチ、酸性カラー、ウィーピング）の習得（相モデル）				6	
13.	サロンスタイル パーマネント（ウェーブヘア、ストレートヘア）の習得（相モデル）				6	
14.	サロンスタイル カット技術 （レイヤーカット・グラデーションカット）の習得				15	
15.	サロン実習Ⅱ サロンワークの実践を店舗で学ぶ（接客・アシスタント業務）				60	
16.	美容国家試験第1課題レイヤーカット技術のポイント説明				3	
17.	美容国家試験第1課題、レイヤーカット技術 ブロッキング～ガイドライン、第3ブロックのカット技術の習得				6	
18.	美容国家試験第1課題、レイヤーカット技術 第3ブロック～第1ブロックのカット技術習得				6	

19.	美容国家試験第1課題、レイヤーカッティング技術 フロント～両サイドのカッティングの習得	6
20.	美容国家試験第1課題、レイヤーカッティング技術 タイムラン（40分）	20
21.	美容国家試験第1課題、レイヤーカッティング技術 タイムラン（30分）	28
22.	美容国家試験第1課題、レイヤーカッティング技術 タイムラン（25分）	技術テストⅠ 36
23.	美容国家試験第1課題、レイヤーカッティング技術 タイムラン（20分）	技術テストⅡ 30
24.	美容国家試験第2課題オールウェーブ技術のポイント説明	3
25.	美容国家試験第2課題、オールウェーブ技術 タイムラン（25分）	技術テストⅢ 72
26.	美容国家試験実技課題、衛生試験の説明	3
27.	美容国家試験実技課題、衛生試験の習得 （準備時間、試験中、試験終了後）	3
28.	美容国家試験実技課題、衛生試験、実技試験の反復練習 （①準備、②第1課題、③準備、④第2課題）	45
29.	美容国家試験、模擬試験	3

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）	2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）	3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

定期技術テストでの結果に応じ、個々で技術の自主練習を徹底させる

使用テキスト

書籍名	出版社
美容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

美容技術DVDを必要に応じて視聴する

そ の 他（生徒への要望等）

- ① 2年次は就職に向けて人頭モデルでの実習。
- ② 国家試験合格に向け日常から衛生面の気配りを意識。
- ③ 評価に応じて自主的に反復練習。

授 科 目	業 名	エステティック I				
担 教 員	池田薫	学 年	1	単 位 数	2	
開 講 時 期	後期	必修・選択	必修	授業区分	演習	
実 務 経 験	無し					
授業の概要	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授業の到達目標	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	エステティックとは（エステティック概論）				1	
2.	ビデオ・DVD学習				1	
3.	ウィッグ練習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・整肌				2	
4.	エステティックとは（関係法規）、復習				1	
5.	ホメオスタシスとストレス（生命活動とホメオスタシス）				1	
6.	ウィッグ練習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・整肌				2	
7.	ホメオスタシスとストレス（生命活動とホメオスタシス）復習				1	
8.	ウィッグ練習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・整肌				2	
9.	ウィッグ練習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・オイルマッサージ・整肌				1	
10.	エステティックカウンセリングとは（エステティックカウンセリング）、復習				2	
11.	ウィッグ練習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・オイルマッサージ・整肌				2	
12.	エステティックの基礎知識（エステティック機器学）、復習				2	
13.	ウィッグ練習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・オイルマッサージ・整肌				2	
14.	相モデル スチームON ポイントメイクメイク落とし～ふき取り・スチームタオル・オイルマッサージ・整肌				5	
15.	フェイシャルエステティックの基礎知識、復習				4	

16.	相モデル スチームON ポイントメイクメイク落とし・クレンジング・ふき取り・Wクレンジング・スチームタオル・オイルマッサージ・整肌	4
17.	栄養の知識（栄養学）、復習	4
18.	ビデオ・DVD学習 機械（ブラシ・スプレー・キッシング）	1
19.	ウィッグ練習 ブラシ・スプレー・キッシング	1
20.	フェイシャルトリートメント工程	2
21.	相モデル ポイントメイクメイク落とし・クレンジング・ふき取り・ブラシピーリング・スチームタオル・スプレー・キッシング・オイルマッサージ・海藻パック・整肌	3
22.	フェイシャル機器機能一覧	2
23.	相モデル ポイントメイクメイク落とし・クレンジング・ふき取り・ブラシピーリング・スチームタオル・スプレー・キッシング・オイルマッサージ・リフレッシュパウダー・整肌	3
24.	座学復習	1
25.	相モデル ポイントメイクメイク落とし・クレンジング・ふき取り・ブラシピーリング・スチームタオル・スプレー・キッシング・オイルマッサージ・クレイパック・整肌	3
26.	座学復習	1
27.	相モデル ポイントメイクメイク落とし・クレンジング・ふき取り・ブラシピーリング・スチームタオル・スプレー・キッシング・オイルマッサージ・整肌	4
28.	座学復習	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
施術前に、テキストで手技手順を確認。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
認定フェイシャルエステティシャン認定ボディエステティシャン理論と技術/一般社団法人日本エステティック協会		
参考書又は参考資料等		
滝川エステティックビデオフェイシャル&ボディ 日本理容美容教育センター出版エステティック		

そ の 他（生徒への要望等）

意識せずに自然に手技ができるところまで習熟して欲しい。

授 科 目	業 名	エステティックⅡ			
担 教 員	池田薫	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	前期	必修・選択	必修	授業区分	演習
実 務 経 験	無し				
授業の概要	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。				
授業の到達目標	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。				
授 業 計 画					コマ数
1.	ビデオ・DVD学習 アイオニック、復習				1
2.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・拭き取り・ブラシピーリング・スチームタオル・スプレーキング・アイオニック・マッサージ・整肌				4
3.	体の仕組みと働き1（解剖生理学）、例題				3
4.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・拭き取り・Wクレンジング・スチームタオル・スプレーキング・アイオニック・マッサージ・海藻パック・整肌				3
5.	皮膚の仕組みと働き1（皮膚科学）				1
6.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・拭き取り・Wクレンジング・スチームタオル・スプレーキング・アイオニック・マッサージ・クールパック・整肌				3
7.	皮膚の仕組みと働き1、例題				1
8.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・拭き取り・Wクレンジング・スチームタオル・スプレーキング・アイオニック・マッサージ・リフレッシュパウダーパック・整肌				4
9.	皮膚の仕組みと働き2				1
10.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・拭き取り・Wクレンジング・スチームタオル・スプレーキング・アイオニック・マッサージ・整肌				4
11.	皮膚の仕組みと働き2、例題				1
12.	フットケア概論				1
13.	体の仕組みと働き1、皮膚の仕組みと働き1・2 復習				2

14.	相モデル フットバス・角質処理・パック・マッサージ・拭き取り	6
15.	化粧品の種類と働き（化粧品学）、例題	2
16.	相モデル フットバス・角質処理・パック・マッサージ・拭き取り	6
17.	衛生と消毒（衛生管理）、例題	2
18.	相モデル フットバス・角質処理・パック・マッサージ・拭き取り	6
19.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・拭き取り・Wクレンジング・スチームタオル・スプレーキング・アイオニック・マッサージ・パック・バター・整肌までの全行程	6
20.	化粧品の種類と働き、衛生と消毒復習	4
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
施術前に、テキストで手技手順を確認。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
認定フェイシャルエステティシャン認定ボディエステティシャン理論と技術/一般社団法人日本エステティック協会		
参考書又は参考資料等		
滝川エステティックビデオフェイシャル&ボディ 日本理容美容教育センター出版エステティック		
そ の 他（生徒への要望等）		
カウンセリング等でお客様の肌質を把握し、個々の肌質に合わせた技術の提供ができるようになってほしい。		

授 科 目	業 名	ネイル I			
担 教 員 名		学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	後 期	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	演 習
実務経験	舩川桃華（実務経験なし）				
授業の概要	日本ネイリスト協会発行のテキストを使用し、指先に関する正しい知識と技術、最新のネイル理論を習得する。				
授業の到達目標	正しく安全に技術を行うための爪や体の知識の学習は勿論、相モデルを通してサービス業としての身だしなみや心得を身につける。				
授 業 計 画					コマ数
1.	検品・道具の確認・接客マナー				2
2.	道具のセッティング・補充方法・ハンドの仕込み方法				2
3.	消毒管理・爪の削り方(ファイリング)・カット方法				2
4.	爪を美しく育むためのクリーンナップ方法				2
5.	消毒～クリーンナップまで（規定時間での練習）				4
6.	美しいカラーポリツシュの塗布方法				2
7.	消毒～カラーリングまで（規定時間での練習）				6
8.	サロンワークにおけるカラーリング方法				2
9.	ジェルネイルにおけるセッティングと用具用材・検定説明				1
10.	ジェルカラーリングの基礎手順				3
11.	技術及び知識のレベルの確認 フォローアップ				4
12.	アクリル絵の具を使用したアート方法				4
13.	ジェルネイルを使用したアート方法				6
14.	ネイルチップ作成のためのデザイン画制作				2
15.	ネイルチップでの作品制作				12

16.	サロンワークにおける接客とカウンセリング	2
17.	人間モデルにて実際的な実技	4
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1・5
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
JNAテクニカルシステム ベーシック	NPO法人 日本ネイリスト協会	
JNAテクニカルシステム ジェルネイル	NPO法人 日本ネイリスト協会	
参考書又は参考資料等		
その他、授業中に適宜、資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年次には、基礎知識や基礎的技術を中心に学んでいくが、今後はこの基礎技術をベースにして高度な技術を構成していく。よって、この基礎技術が未習熟であると今後の学習に影響してくるので 確実な技術習得をしてください。		

授 科 目	業 名	ネイルⅡ			
担 教 員	馬原恵美	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	前期	必修・選択	必修	授業区分	演習
実務経験	馬原恵美（JNA本部認定講師及びネイルサロン勤務）				
授業の概要	日本ネイリスト協会発行のテキストを使用し、指先に関する正しい知識と技術、最新のネイル理論を習得する。				
授業の到達目標	ジェルネイル検定上級、及び日本ネイリスト検定試験2級レベルの合格技術を修得する。正しく安全に技術を行うための爪や体の知識の学習は勿論、相モデルを通してサービス業としての身だしなみや心得を身につける。				
授 業 計 画					コマ数
1.	検定取得についての基礎知識 ・練習においての心構え				1
2.	基礎知識の確認 ・フォローアップ				1
3.	衛生的なテーブルセッティング・ジェル検定中級レベルの技術工程				2
4.	ジェル検定中級レベルの技術練習				10
	A（安全なジェルのオフ方法）				
	B（ジェルイクステンションのリペア、正しいフォルム）				
	C（ジェルグラデーション・ジェルフレンチ）				
5.	ジェル検定上級レベルの技術練習				6
	A（ジェルイクステンションで5本揃えたフォルム作り）				
	B（ジェルチップオーバーレイ）				
	C（ジェルデザインイクステンション）				
6.	2級検定試験内容の技術練習				6
	A（チップ&ラップの正しい装着方法）				
7.	技術レベルの確認 フォローアップ				4
8.	アートデザインの構成・時代にあった作品作り				5
9.	アートの大会に向けての作品作り				6
10.	技術競技大会・検定試験対策（技術）				4
11.	検定試験対策（筆記）				1
12.	検定試験で求められる技術レベルの確認				6

13.	サロンワーク対策	3
14.	卒業作品制作	5
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1.5	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
JNAテクニカルシステム ベーシック	NPO法人 日本ネイリスト協会	
JNAテクニカルシステム ジェルネイル	NPO法人 日本ネイリスト協会	
参考書又は参考資料等		
NAILMAX（株式会社ミーティア）、NAILVENUS（株式会社 実業之日本社）		
その他、授業中に適宜、資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年次に習得した技術を基礎とし、応用力、判断力を身に付けていく この応用力を習得することにより、更なる技術力の吸収に近づけましょう。		

授 科 目	業 名	情報技術 I				
担 教 員	当 名	上野景子	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期		通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	演 習
実 務 経 験	無し					
授 業 の 概 要	<p>教科書はよくわかる「Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016 (FOM出版)」および課題(講師準備)を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり必要な情報技術を学ぶものである。</p>					
授 業 の 到 達 目 標	理容業・美容業に必要な情報技術を学び、実務において実践できるパソコンスキルおよび情報モラルを身につける。					
授 業 計 画						コマ数
1	OSとアプリケーション Windowsの基本操作とアプリケーション					2
2	入力練習(タイピングの基礎知識と演習・基本の入力方法)					2
3	プレゼンテーションソフト PowerPointについて					2
4	プレゼンテーションソフト イラスト・写真・図・表の挿入					2
5	プレゼンテーションソフト アニメーションの設定					2
6	プレゼンテーションソフト 自己紹介(セールスポイント)の作成					6
7	プレゼンテーションソフト 自己紹介(セールスポイント)の発表					2
8	文書作成ソフト 文章入力練習					2
9	文書作成ソフト 基本的な文書の作成方法					2
10	文書作成ソフト ビジネス文書作成演習					4
11	学校地図(案内図)作成(PowerPoint)					2
12	文書作成ソフト 文書作成(図・表の挿入と装飾)					2
13	文書作成ソフト 表現力をアップする文書作成演習					2
14	文書作成ソフト チラシ作成					2
15	サロンチラシ作成(PowerPoint)					4
16	ポスター作成(PowerPoint)					2
17	文書作成ソフト 課題演習					8
18	情報モラルとセキュリティ 個人情報、著作権、SNSの適切な取り扱い,					2
19	プレゼンテーションソフト プレゼン作成					8
20	プレゼンテーションソフト プレゼン発表					2

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
理美容室の発信内容や掲示物に積極的に興味を持ち、課題作成時の参考にしてほしい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016	FOM出版（富士通エフ・オー・エム株式会社）	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング技術およびOffice（Word・Excel・PowerPoint）の活用、インターネット検索などは基本的な情報スキルなので、業務に関わらず活用できるスキルを身につけてほしい。 ・店内POPやチラシ、SNS等でお客様にわかりやすく伝えられるように、デザイン力や自己表現スキルを身につけてほしい。 ・著作権や個人情報の取り扱い等、情報モラルを学び日頃から実践してほしい。 		

授 科 目	業 名	情報技術Ⅱ				
担 教 員 名	上野景子	学 年	2	単 位 数	2	
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	演 習	
実 務 経 験	無し					
授 業 の 概 要	<p>教科書はよくわかる「Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016 (FOM出版)」および課題(講師準備)を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり必要な情報技術を学ぶものである。</p>					
授 業 の 到 達 目 標	理容業・美容業に必要な情報技術を学び、実務において実践できるパソコンスキルおよび情報モラルを身につける。					
授 業 計 画					コマ数	
1	履歴書作成1 (インターネットからテンプレートのDL、入力)				2	
2	履歴書作成2 (面接対策のための自己分析・自己PR作成)				2	
3	履歴書作成3 (面接対策のための自己PR作成)				2	
4	表計算ソフト EXCELのデータ入力とルール				4	
5	表計算ソフト 表の作成				4	
6	表計算ソフト グラフの作成と挿入				4	
7	ヘアショーポスター作成 (PowerPoint)				4	
8	表計算ソフト 計算・関数の入力				2	
9	表計算ソフト 請求書の作成				4	
10	実習先ヘアサロン紹介チラシ作成・案内図 (PowerPoint)				4	
11	表計算ソフト データベースの活用				2	
12	表計算ソフト 課題演習				4	
13	文章作成ソフト 課題演習				4	
14	サロンメニューチラシ作成 (PowerPoint)				4	
15	総合 差し込み印刷 (宛名ラベルの作成)				2	

16	情報モラルとセキュリティ 個人情報、著作権、SNSの適切な取り扱い	2
17	プレゼンテーションソフト プレゼン作成	8
18	プレゼンテーションソフト プレゼン発表	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
理美容室の発信内容や掲示物に積極的に興味を持ち、課題作成時の参考にしてほしい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016	FOM出版（富士通エフ・オー・エム株式会社）	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
<ul style="list-style-type: none"> ・タイピング技術およびOffice（Word・Excel・PowerPoint）の活用、インターネット検索などは基本的な情報スキルなので、業務に関わらず活用できるスキルを身につけてほしい。 ・店内POPやチラシ、SNS等でお客様にわかりやすく伝えられるように、デザイン力や自己表現スキルを身につけてほしい。 ・著作権や個人情報の取り扱い等、情報モラルを学び日頃から実践してほしい。 		

授 科 目	業 名	メイク			
担 教 員 名	石川裕美	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必修・選択	必修	授業区分	演習
実務経験	(美容所において美容師として勤務)				
授業の概要	道具のセッティング、作業効率の向上と衛生を理解する。また、一つ一つの技術の目的と効果を理解し、技術習得をする。				
授業の到達目標	メイクアップの基本技術を習得し、施術時間の範囲内での仕上がりのバランスの向上、接客術の向上を目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	メイク道具の名称、使用目的を理解する 化粧品の定義、スキンケアの必要性				3
2.	スキンケア～ベースメイクの手順(相モデル)				3
3.	ポイントメイク(アイメイク)(相モデル)				3
4.	リップメイク・ブラッシュオンメイク(相モデル)				3
5.	テストⅠ【ベーシック】(相モデル)				3
6.	ベースメイクの多色塗り				3
7.	アイメイク(つけまつ毛テクニック)・チークのバリエーション				3
8.	トータルメイク(質感とイメージ)(相モデル)				3
9.	バリエーションメイクデザイン画作成・テスト前リハーサル				3
10.	テストⅡ【バリエーション】(相モデル)				3
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)					
施術前に教科書、テキストで手技手順を確認する。					

使用テキスト	
書籍名	出版社
美容技術理論Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
参考書又は参考資料等	
授業中に適宜、その他の資料を配布する。 授業内でメイクアップの技術DVDを使用する	
そ の 他（生徒への要望等）	
メイクアップを通して、感性・創造性を学んでほしい。	

授 科 目	業 名	接遇Ⅰ（美容総合技術）			
担 教 員 名	石川裕美	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	実務経験なし				
授 業 の 概 要	この授業は、理容師・美容師を養成するために必要な言葉遣いや立ち振る舞いなどをはじめ、接遇の基本的な部分を学習し、演習を行う。				
授 業 の 到 達 目 標	接客業のプロフェッショナルを目指す者に必要な接遇の力を身に付けさせる。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	第1章	なぜ接遇が必要なのか			1
2.	第2章	社会人としての準備期間 ・働くとは ・プロの心構えとは			2
3.	第3章	基本行動訓練（基礎編） ・マナーの基本			1
4.		・役割認識 ・時間管理 ・秘密厳守			2
5.		・法令遵守（コンプライアンス）			2
6.		・礼儀 ・常識 ・マナー			3
7.	第4章	基本行動訓練（行動編） ・第一印象 ・メラビアンの法則			1
8.		・印象・挨拶（動作、挨拶言葉） ・お辞儀の仕方 ・表情 ・視線			5
9.		・身だしなみ（清潔感、機能的、控えめ） ・身だしなみとおしゃれ			1
10.		・言葉遣い ・言葉遣いの演習			2
11.		・電話対応 ・携帯電話 ・電話対応の演習			2
12.		・手紙 ・電子メール ・SNS ・目的に応じた文章（演習）			2
13.		・立ち振る舞い ・歩き方 ・立ち振る舞いと歩き方の演習			2
14.	第4章 管理	基本行動訓練（意識面） ・清掃 ・整理整頓 ・物品管理 ・自己			1
15.		・信用と信頼 ・約束と契約			1
16.		・指示・命令 ・報告（5W3H） ・相談			1
17.		・相手の立場に立つ ・礼をつくす ・感謝の気持ち			1
評 価 の 3 観 点 と ウ エ ィ ト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウ エ ィ ト 1		ウ エ ィ ト 1.5		ウ エ ィ ト 1	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

授業で学んだことを、日常生活において実践するよう意識する事。

使用テキスト

書籍名

出版社

授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

理容師・美容師は技術者を提供する職業であるとともに、サービス業でもある。
理解するだけでなく実践できてこそその接遇力である。
必要な時に自然に行えるよう、研鑽に努めて欲しい。

授 科 目	業 名	接遇Ⅱ（美容総合技術）				
担 教 員 名	木村祐紀子	学 年	2	単 位 数	1	
開 講 時 期	通年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義	
実 務 経 験	無し					
授 業 の 概 要	この授業は、理容師・美容師を養成するために必要な言葉遣いや立ち振る舞いなどをはじめ、接遇の基本的な部分を学習し、演習を行う。					
授 業 の 到 達 目 標	接客業のプロフェッショナルを目指す者に必要な接遇の力を身に着けさせる。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	接客実践	迎え入れ(ファーストコンタクト、受付)			6	
2.	接客実践	施術(技術的なサービス)			6	
3.	接客実践	もてなし(技術以外の接客サービス)			6	
4.	接客実践	全体把握(全体の流れとオペレーションの把握、俯瞰力)			6	
5.	接客実践	フィードバックとブラッシュアップ(反省と改善)			6	
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)		
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
授業で学んだことを、日常生活において実践するよう意識する事。						
使用テキスト						
書籍名			出版社			
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。						
参考書又は参考資料等						
授業中に適宜、資料を配布する。						
そ の 他（生徒への要望等）						
理容師・美容師は技術者を提供する職業であるとともに、サービス業でもある。 理解するだけでなく実践できてこそその接遇力である。 必要な時に自然に行えるよう、研鑽に努めて欲しい。						

授 科 目	業 名	作品制作Ⅰ（総合技術／作品制作Ⅰ／美容）				
担 教 員	当 名	石川裕美	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	通 年	必修・選択	必修	授業区分	演習	
実務経験	木村祐紀子（美容所において美容師として勤務）					
授業の概要	1年次の美容実習で学んだ「毛髪を梳く・分ける・まとめる・留める」という基礎課題が習得できているかを実践・確認する。競技会入賞作品を参考に上位を目指す					
授業の到達目標	1年間で学んだ毛髪をあつかうための基礎技術を使い、新日本髪の実成を通し、基礎技術の重要性について認識させる。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	各種競技会種目のタイムアップ練習（ワインディング）				12	
2.	卒業作品の制作/デザイン画～モデルウィッグ練習				2	
3.	卒業作品の制作/プレスタイリング、毛量、質感チェック				2	
4.	卒業作品の制作/カラーリング（ブリーチ）				4	
5.	卒業作品の制作/カラーリング（オンカラー）				4	
6.	卒業作品の制作/メイクアップ、スタイリング				4	
7.	卒業作品の制作/フォトシューティングによるデザインチェック				2	
8.	ヘアショー作品の制作/記録（写真・DVD）				6	
9.	ヘアショー作品の制作/構成～モデル練習				6	
10.	ヘアショー作品の制作/メイクアップ				6	
11.	ヘアショー作品の制作/スタイリング				6	
12.	ヘアショー作品の制作/スタイリング～ショー完成				6	
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）		
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
放課後における自主学習・練習						

使用テキスト	
書籍名	出版社
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。	
参考書又は参考資料等	
実習中に適宜資料を配布する。	
そ の 他（生徒への要望等）	
<p>① これまでに習得（インプット）した技術を再現（アウトプット）することで、これまでに学んだ知識の理解を深めてほしい。</p> <p>② これまでの学校生活で学び練磨した技術と知識を使い、ひとつのヘアスタイルとして表現することで、スタイルづくりの楽しさと難しさを実感してほしい。</p>	

授 科 目	業 名	作品制作Ⅱ（総合技術／作品制作2／美容）			
担 教 員 名	木村祐紀子	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	通年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	演 習
実 務 経 験	木村祐紀子（美容所において美容師として勤務）				
授 業 の 概 要	1年次で学んだ美容技術を踏まえ、2年次で新たに習得した技術と合わせて学生の個人レベルに合わせた作品制作を行い、校内ヘアショー、卒業作品とする。				
授 業 の 到 達 目 標	2年間で学んだ技術を用い、基礎技術が抑えられた発想豊かなヘアスタイルをモデルウィッグにて作成する。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	ヘアショー作品の制作/構成～モデル練習				6
2.	ヘアショー作品の制作/メイクアップ				6
3.	ヘアショー作品の制作/スタイリング				6
4.	ヘアショー作品の制作/スタイリング～ショー完成				6
5.	ヘアショー作品の制作/記録（写真・DVD）				6
6.	卒業作品の制作/デザイン画～モデルウィッグ練習				5
7.	卒業作品の制作/プレスタイリング、毛量、質感チェック				3
8.	卒業作品の制作/カラーリング（ブリーチ）				6
9.	卒業作品の制作/カラーリング（オンカラー）				6
10.	卒業作品の制作/メイクアップ				4
11.	卒業作品の制作/スタイリング				3
12.	卒業作品の制作/フォトシューティングによるデザインチェック				3
評 価 の 3 観 点 と ウ エ ィ ト					
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウ エ ィ ト 1.5		ウ エ ィ ト 1		ウ エ ィ ト 1	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）					
作品制作や、技術力アップは個人の研究・練習時間が不可欠である。自主学習において、発想力を養う為の情報収集やクラスメイトとの切磋琢磨する時間、講師への予・復習の確認を積極的に行わせる。					

使用テキスト	
書籍名	出版社
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。	
参考書又は参考資料等	
授業中に適宜、その他の資料を配布する。	
そ の 他（生徒への要望等）	
<p>① これまでに習得（インプット）した技術を再現（アウトプット）することで、これまでに学んだ知識の理解を深めてほしい。</p> <p>② これまでの学校生活で学び練磨した技術と知識を使い、ひとつのヘアスタイルとして表現することで、スタイルづくりの楽しさと難しさを実感してほしい。</p>	

授 科 目	業 名	保健体育				
担 教 員 名	得本啓次	学年	1	単 位 数	1	
開 講 時 期	後期	必修・選択	必修	授 業 区 分	演習	
実 務 経 験	実務経験なし					
授 業 の 概 要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。					
授 業 の 到 達 目 標	スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す。開講の順番は変更の可能性あります。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	ガイダンス				1	
2.	マインドセット、ZERO100プロジェクト				1	
3.	健康寿命と運動の関わり				1	
4.	人体の区分と名称				1	
5.	代表的な関節運動				1	
6.	骨の仕組みと働き				1	
7.	筋肉の仕組みと働き				1	
8.	スポーツ、運動の必要性				1	
9.	ファンクショナルトレーニング				1	
10.	基礎動作の重要性				1	
11.	栄養学 三大栄養素				1	
12.	栄養学 ビタミンとミネラル				1	
13.	正しい姿勢とプランク				1	
14.	上肢、下肢の動き				1	
15.	ローテーション				1	
16.	子ども。高齢者の基礎知識				1	
17.	トレーニングの原理、原則				1	
18.	トレーニングの原理、原則の種類と方法				1	
19.	高齢期の運動指導				1	

20.	高齢期の運動指導	1
21.	児童期の運動指導	1
22.	児童期の運動指導	1
23.	エネルギー代謝	1
24.	エネルギー代謝	1
25.	身体現状	1
26.	運動との関わりワーク	1
27.	セルフマッサージ	1
28.	試験対策	1
29.	レポート作成	1
30.	終講試験	1
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 2	ウエイト 1	ウエイト 0
使用テキスト		
書籍名	出版社	
改訂版 生涯スポーツトレーナー教 本	学校法人 国際学園	
そ の 他 (生徒への要望等)		

授 科 目	業 名	ネイルⅢ（総合技術／ネイルⅠ）			
担 教 員 名		学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後 期	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実務経験	(実務経験なし)				
授業の概要	日本ネイリスト協会発行のテキストを用いて検定試験2級に合格できる技術と知識の習得を行う。				
授業の到達目標	日本ネイリスト検定2級取得を目標に、プロとしてのネイルケアの技術を修得する。また、サロンワーク、及び技術競技大会で通用するアート技術を磨く。				
授 業 計 画					コマ数
1.	2級検定に求められるネイルケア技術				8
2.	検定のテーマに沿ったアート作成				2
3.	大会レベルのアート作成				2
4.	爪の補強、修復技術				2
5.	チップ&ラップの正しい装着方法				6
6.	2級検定技術の規定時間での練習				8
7.	1級検定レベルの技術工程				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)	
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
JNAテクニカルシステム ベーシック			NPO法人 日本ネイリスト協会		
JNAテクニカルシステム ジェルネイル			NPO法人 日本ネイリスト協会		
参考書又は参考資料等					
その他、授業中に適宜、資料を配布する。					

そ の 他（生徒への要望等）

卒業後には、即実践できるようプロテクニクを学ぶ教科科目である。
プロに求められる技術指導を行っていくため、技術レベルの要求だけでなく、立ち振る舞いについても指導するので、プロ意識を持って学んでほしい。

授 科 目	業 名	ネイルⅢ（総合技術）			
担 教 員 名	馬原恵美	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実 務 経 験	有り：ネイルサロン勤務				
授 業 の 概 要	ネイルの基礎をしっかりと学んだ後、さらに技術を磨いて修得することのできる、プロテクニクを学ぶものである。				
授 業 の 到 達 目 標	高度な技術であるのは勿論、アート性にも優れた完成度の高い作品を、自分で考え、作りあげることが目標とする。 日本ネイリスト検定の中で最難関と言われる1級取得を目指す。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	アクリルスカルプチュアとは何か・理論				1
2.	アクリルスカルプチュアの安全な装着方法と手順				1
3.	アクリルスカルプチュアの作成				4
4.	チップオーバーレイの作成				4
5.	立体的な3Dアート・創造性を働かせる				2
6.	検定1級レベルの技術練習（規定時間での練習）				4
7.	サロンワーク技術				2
8.	ジェル検定技術練習				8
9.	検定2級レベル技術練習				2
評 価 の 3 観 点 と ウ エ ィ ト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウ エ ィ ト 1		ウ エ ィ ト 1.5		ウ エ ィ ト 1	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）					
授 業 で 学 ん だ 技 術 を 反 復 練 習 し 、 着 実 な 技 術 習 得 に 努 め る こ と 。					
使 用 テ キ ス ト					
書 籍 名			出 版 社		
JNAテクニカルシステム ベーシック			NPO法人 日本ネイリスト協会		
JNAテクニカルシステム ジェルネイル			NPO法人 日本ネイリスト協会		

参考書又は参考資料等

その他、授業中に適宜、資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

卒業後には、即実践できるようプロテクニクを学ぶ教科科目である。
プロに求められる技術指導を行っていくため、技術の取り組み方と共に、接客、立ち振る舞いについても指導するので、プロ意識をもって学んで欲しい。

授 科 目	業 名	マツエク（まつ毛エクステンションⅠ）			
担 教 員 名	石川裕美	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実 務 経 験	石川裕美（美容所において美容師として勤務）				
授 業 の 概 要	まつ毛エクステンションの正しい知識を身に着ける。 用具類の衛生管理、使用法を正しく理解し、基本的な装着、 リムービングの技術を習得する。				
授 業 の 到 達 目 標	用具類の使い方や管理方法を正しく理解する。 基本的な装着方法、リムーブが時間内に仕上げる事ができる。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	睫毛エクステンションについて概論。使用薬品・用具の説明				2
2.	衛生管理の基礎知識				2
3.	睫毛エクステンション技術 カウンセリング テーピングの習得（モデルウィック）				4
4.	睫毛エクステンション技術 カウンセリング 掻き分けの習得（モデルウィック）				4
5.	睫毛エクステンション技術 テーピングの習得（相モデル）				4
6.	睫毛エクステンション技術 人工毛装着とリムーブの習得（モデルウィッ ク）				6
7.	睫毛エクステンション技術 人工毛装着とリムーブの習得（モデルウィッ ク） タイムアップ				8
評 価 の 3 観 点 と ウ エ ィ ト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
実 習 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）					
なし					
使 用 テ キ ス ト					
書 籍 名			出 版 社		
「まつ毛エクステンション」日本理容美容教育センター					
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等					
なし					

そ の 他（生徒への要望等）

- ①まつ毛エクステンションの魅力
- ②正しい基礎知識の習得

授 科 目	業 名	まつエク（まつ毛エクステンションⅡ）				
担 教 員	当 名	石川裕美	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前 期	必修・選択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実 務 経 験	石川裕美（美容所において美容師として勤務）					
授 業 の 概 要	用具類の衛生管理、使用法を正しく理解し、実践できる。 デザインを取り入れた装着技術の習得する。大会出場に向けての練習。					
授 業 の 到 達 標	用具類の使い方や管理方法を正しく理解する。 デザインを理解し、決められた本数を時間内に、正確に美しく仕上げることができる。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	睫毛エクステンション技術 （モデルウィッグ）復習	人工毛装着とリムーブの習得（モデルウィッグ）			2	
2.	睫毛エクステンション技術 （モデルウィッグ）復習	デザインに沿った人工毛の選択と装着の習得			2	
3.	睫毛エクステンション技術 テーピング、掻き分けの習得復習	カウンセリング			2	
4.	睫毛エクステンション技術 （モデルウィッグ）タイムアップ	人工毛装着とリムーブの習得			2	
5.	まつ毛エクステンションのデザイン（キューティーライン）				2	
6.	まつ毛エクステンションのデザイン（セクシーライン）				2	
7.	まつ毛エクステンションのデザイン（グラマスライン）				2	
8.	大会練習				16	
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）		
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1		
実習外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
使用テキスト						
書籍名			出版社			
「まつ毛エクステンション」日本理容美容教育センター						
参考書又は参考資料等						

そ の 他（生徒への要望等）

- ①先端が鋭利な道具、グルーなど危険を伴う技術であることを意識して授業に臨むこと。
- ②技術練習はウィッグを使用し、人体に行うことのないようにしてください。

授 科 目	業 名	クリエイティブ（総合技術／クリエイティブⅠ）			
担 教 員 名	大谷孔平	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実 務 経 験	大谷孔平（美容所において美容師として勤務）				
授 業 の 概 要	ヘアスタイル制作の応用力を身につけさせる				
授 業 の 到 達 目 標	ヘアスタイルの仕組みを理解し、自分の力でスタイルづくりが行えるようになる				
授 業 計 画					コマ数
1.	カットの基礎スタイルを学ぶ（ワンレン・レイヤー・グラデーション）				8
2.	コピーカット実習				6
3.	作品制作（カットのみ）				4
4.	ブリーチ技術の基礎				4
5.	ヘアカラーリング技術の基礎				4
6.	作品制作（カラーのみ）				4
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
実習外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
教科担当が制作したカットノート					
参考書又は参考資料等					

そ の 他（生徒への要望等）

通常の実習で学ぶカット技術とカラー技術から一歩進んだ知識と技術を身につけてほしい

授 科 目	業 名	クリエイティブ（総合技術／クリエイティブⅡ）			
担 教 員 名	大谷孔平	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必修・選択	選択	授業区分	演習
実務経験	大谷孔平（美容所において美容師として勤務）				
授業の概要	今日のサロン現場におけるクリエイティブワークの技術と理論を研究・考察をおこない、実習という形で経験し、サロン現場に役立つ知識とスタイル発想力を高めていく。				
授業の到達目標	通常実習で学ぶ基本ヘアスタイルと技術を基にデザイン力を鍛え、個人が発想した独創的なヘアスタイルを応用技術において現実化し、カメラを用いたフォトアートとしてクリエイティブ作品を制作する。				
授 業 計 画					コマ数
1.	座学（作品撮りとカメラ操作について）				2
2.	作品制作（ウィッグ）				6
3.	作品制作（相モデルによる、フォトシューティング）				7
4.	作品制作（相モデルによるコンテスト出品作品）				7
5.	作品制作（ウィッグによるコンテスト出品作品）				8
6.					
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
実習外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
雑誌やインターネットを活用してスタイルフォトやクリエイティブ作品などを積極的に閲覧し、クラスメイトまたは講師とのディスカッションが円滑にすすむように個人の方法でスクラップしておく。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。					
参考書又は参考資料等					
授業中に適宜、関連資料を配布する。					

そ の 他（生徒への要望等）

- ① ヘアスタイルをつくる楽しさを知ってほしい。
- ② 基礎技術と応用技術の違いを知り、ヘアスタイルの変化を感じてほしい。
- ③ クリエイティブ活動を通じて、ヘアスタイルをいろんな角度から見る力を養ってほしい。

授 科 目	業 名	ブライダル（総合技術／ブライダル1）				
担 教 員 名	木村祐紀子	学 年	1	単 位 数	1	
開 講 時 期	通年	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実 務 経 験	木村祐紀子（美容所において美容師として勤務）					
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じたメイクアップ技術の習得ができるように相モデルによる実践授業 ・さまざまな年齢層に対応できる技術、知識の習得 ・ブライダル業界での即戦力になる細やかな配慮ができる人材育成 					
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブライダル業界で美容師として活躍することの自覚をつけること。 ・さまざまな分野に興味を持ち続け、自身の知識を増やすこと。 					
授 業 計 画					コ マ 数	
1.	セレモニー全般の基礎知識 ブライダルの歴史と習慣 市場の現状と今後 サービス業とセレモニー 美容師と業界の関わり				2	
2.	洋装メイクアップ技術（相モデル） フォーマルメイク、シーズンメイク、カラーコーディネート				2	
3.	洋装メイクアップ技術（相モデル） ブライダルメイク ウェディングドレスに合うメイク技術の習得				2	
4.	和装メイクアップ技術（相モデル） 着物に合うフォーマルメイク技術の習得				2	
5.	和装メイクアップ技術（相モデル） 和装花嫁の古典化粧技術の習得				2	
6.	洋装、和装のメイク技術テストⅠ				2	
7.	洋装アレンジヘア アップスタイル技術の習得（モデルウィッグ）				4	
8.	洋装アレンジヘア ダウンスタイル技術の習得（モデルウィッグ）				4	
9.	和装アレンジヘア 成人式アップヘアの習得（相モデル）				4	
10.	和装アレンジヘア ミセス向けダウンスタイルヘアの習得（相モデル）				2	
11.	和装ヘアメイク技術テストⅡ（相モデル）				2	
12.	和装ヘアメイク技術テストⅢ（相モデル）				2	

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
メイクアップイメージ画、アレンジヘアスタイルブック作成		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
美容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
美容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
美容技術DVDを必要に応じて視聴する		
そ の 他（生徒への要望等）		
<ul style="list-style-type: none"> ・日常から様々な分野に興味関心を持ち、知識を増やして欲しい。 ・常に向上心を持ち、自身の技術を磨いて欲しい。 		

授 科 目	業 名	ブライダル（総合技術／ブライダル2）			
担 教 員 名	木村祐紀子	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必修・選択	選 択	授業区分	演 習
実務経験	木村祐紀子（美容所において美容師として勤務）				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ブライダル現場を想定した実践授業が中心。 ・和装、洋装、ヘアメイクトータルでのバリエーションを増やす 				
授業の到達目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブライダル業界での即戦力になる細やかな配慮ができる人材に育てる ・さまざまな場面での機転が利く人材になるよう育てる 				
授 業 計 画					コマ数
1.	着付け技術習得 女性袴着付け	(相モデル)			2
2.	着付け技術習得 男性袴着付け	(相モデル)			2
3.	着付け技術習得 振袖着付け	(相モデル)			8
4.	和装トータル習得 袴着付け	ヘアメイクアップ	(相モデル)		2
5.	和装トータル習得 振袖着付け	ヘアメイクアップ	(相モデル)		4
6.	洋装アレンジヘア	メイクアップのコーディネート			2
7.	洋装アレンジヘア	メイクアップ、ドレスのコーディネート			2
8.	洋装ウェディングモデルの撮影				2
9.	洋装or和装トータル 技術テスト				6
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 (定期試験、授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
ヘッドドレス、アクセサリとドレスのコーディネートの打ち合わせ					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
美容実習Ⅰ			公益社団法人日本理容美容教育センター		
美容技術理論Ⅰ			公益社団法人日本理容美容教育センター		

参考書又は参考資料等

美容技術DVDを必要に応じて視聴する

そ の 他（生徒への要望等）

- TPOに応じた顧客への対応や自身の身だしなみなどの自覚を持つ。